

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・甲殻類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

(10) 軟体動物（陸・淡水産貝類）

日本に生息する陸産貝類は 1,021 種、淡水産貝類は 215 種が知られている（環境省，2002）。

埼玉県内の陸・淡水産貝類を網羅した報文としては川名（1978）による 29 科 118 種が知られ、これに川名・松本（1985）により 3 科 8 種が追加され 32 科 126 種となった。その後、県内各地で市町村誌編纂による詳細な調査結果がまとめられ、さらに研究者らによる移入種等の発見も加わり、それらをまとめると埼玉県からはこれまでに陸・淡水産貝類 143 種（亜種・移入種を含む）が記録されたことになる。本書を刊行するにあたり、そこから外来種や移入種など 16 種を除いた 127 種を対象に本県における生息状況を調査した結果、38%に当たる 48 種をレッドリスト掲載種とした。

これまでの軟体動物（陸・淡水産貝類）の変遷を見ると、初版での 37 種、改訂版の 46 種、前版の 47 種、そして今回の 48 種と、徐々にではあるが絶滅を危惧すべき状況にある陸・淡水産貝類は増加している。この 48 種のなかには今回の調査によって絶滅種（埼玉県，2008）とされていたヤセアナナシマイマイの 2015 年の再発見の記録がある。本種は川名（1978）の記録以降、約 37 年ぶりの再発見となった。これにより、本種のレッドランクは前版の EX（絶滅種）から CR+EN（絶滅危惧 I 類）に変更した。しかし、その生息状況は局地的で個体数も少なく決して楽観できるものではない。また、キセルガイ科のオオトノサマガセルを新たにレッドリストに追加した。本種はこれまでの生息調査から確認できた既知産地数と個体数がともに減少していることが危惧されることからレッドランクを NT2（準絶滅危惧）とした。

次に地帯区分から見た貝類の分布状況の概略を述べる。

[山地帯・低山帯]

県西部の標高 1,600 ~ 800m の山地帯から県中央部の標高 800 ~ 200m の低山帯にかけては多種類の陸産貝類が分布するが、標高 1,600m 以上の亜高山帯に分布する種は少ない。この地帯の代表的な種として、秩父を模式産地とするチチブギセルがあげられる（レッドランクは VU）。本種は、これまでに秩父市大滝の三峰山奥の宮や雲取林道の惣小屋谷で記録があるが、近年ではほとんど見られなくなった。またヤグラギセル（レッドランクは VU）は東京都奥多摩地方から秩父山地の武甲山系に分布し、石灰岩地特有の種類と言われているが既知産地は減少している。その一方で石灰岩地以外の新たな生息地も小鹿野町両神において確認された。同地は落葉広葉樹林下で林床部には珪質の砂岩礫や岩石、落葉が散在する環境であるが、確認できた個体数は少なく、その希少性からみたレッドランクはこれまでと変化はない。他の分布種も希産であるが、いずれの種類も落葉広葉樹林に生息する。すなわち、キヌハダギセル、オオタキコギセル、オオトノサマガセルをはじめミヤマヒダリマキマイマイ、コベソマイマイ、さらに微小種のタカキビやサドタカキビ、ウメムラシタラガイ、ミジンヤマタニシそしてキヌツヤベッコウなどである。

陸産貝類は、一般的にその分布が局地的で生息確認が困難な場合が多い。生息地は落葉広葉樹林の自然林下で、多くは林床部の落葉下や大樹の根元、朽木などに依存した生活を送っており、

そこに潜むように生息する。また、コケが付着する石灰岩の岩や礫が散在する落葉混じりの林床部にもみられ、一部の種では樹幹部などにも出現する。その実態は移動力に乏しく、生態は潜性であることから森林伐採や林道開発などわずかな環境変化に対しても適応力が弱く、絶滅しやすい動物群といえる。

[台地・丘陵帯]

山地帯と低地帯との間に位置する県中央部の台地・丘陵帯（標高 50～200m）は、山地と低地の陸・淡水産貝類の分布が交錯している地域である。主に旧江南町（現熊谷市）や小川町、嵐山町、越生町などで、丘陵や谷戸そして湧水などからなる複雑な地形により生息する種類も多様である。この丘陵帯に特徴的なのは淡水貝が多く池沼や水田側流にみられるヨコハマシジラガイ、オオタニシが代表的な種である。ほかではドブガイ、イシガイ、マツカサガイ、マルタニシ、モノアラガイなどであるが、これらの種は低地帯へ分布域が連続する。近年、三浦ら（2014）により台地・丘陵帯からマツカサガイの新たな生息記録も知られた。陸産貝ではアツブタガイが丘陵帯に分布する代表的な種類である。人の生活圏に接するこの地帯は貝類の生息地が土地改変などの影響を受けやすく、急速な環境悪化が生じれば、たちまちこれらの種は生息の危機に直面することになる。

[低地帯]

県のほぼ中央部を走る八王子構造線より東側の低地帯（標高 50m 以下）で特徴的な淡水貝はカラスガイである。その他にも、中川・加須低地で記録がある絶滅種カワネジガイ（埼玉県, 2008）をはじめ、ミズコハクガイ、トウキョウヒラマキガイ、キバサナギガイ、ドブシジミなどの小型種が特有である。また、カワコザラガイは東部低地に記録がある。陸産貝ではナガオカモノアラガイがみられる。当地帯の淡水貝は止水域のような比較的閉鎖された環境に生息するため、水質汚染などによる生息個体の減少が危惧されている。旧北川辺町（現加須市）の旧川の駒場周辺では、1988 年の冬季渇水期の調査では川底から突出する多数の大型カラスガイの貝殻が目視できたが（松本, 1988）、今回、同時期の調査では目視できた個体数はかなり減少していた。

一方、近年では調査の進展とともに外来種や移入種の発見も相次いだ。陸産貝では本州（長野県以西）、四国、九州に分布するアズキガイが飯能市（松本, 2009）や川口市で確認された。また淡水貝では熊谷市や秩父市の養鱒場などにコモチカワツボが確認され（松本・金澤, 2005b）川島町ではトンガリササノハガイも確認された（金澤・松本, 2008）。さらに荒川、新河岸川の感潮域ではカワヒバリガイが確認された（金澤, 2015）。これらの貝類の定着には人為的な要因があると推測されるが、近い将来に在来種との競合が生じることが危惧される。

[付記] 次ページ以降の種ごとの解説において、形態や国内分布に関する項目は、東（1982）、環境省（2002）、増田・内山（2004）、湊（1988）を参照した。

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

〔目名・科名〕 異鰓目ヒラマキガイ科  
埼玉県(2018) EX 環境省(2014) CR+EN

〔和名〕 **カワネジガイ**

〔学名〕 *Camptoceras hirasei* Walker  
指定状況 -

---

【形態】 殻高10mm、殻径2mm内外で著しく細長い貝。螺層は3.5～4層を数え螺管の肩部は角張っている。殻表には細かい成長脈がある。縫合はきわめて深く溝状となる。殻口は長円形でその縁は薄い。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 止水域よりやや緩やかな流水域を好み、水中に浮かぶ水草やヨシなどの浮遊物に付着する。また池沼やため池などの水面付近にみられる。

【県内での生息状況】 低地帯に分布。久喜市北中曽根の備前堀川東側小流にて1980年7月3日に採集された記録がある(埼玉県, 2008)。

【特記事項】 前版刊行時と生息状況に変化はみられない。

〔目名・科名〕 異鰓目ヤマボタルガイ科  
埼玉県(2018) EX 環境省(2014) LP

〔和名〕 **ヤマボタルガイ**

〔学名〕 *Cionella lubrica* (Muller)  
指定状況 -

---

【形態】 殻高7mm、殻径1.5mm内外。螺層は5～7層。殻口は垂直で小さく、半卵形。口縁は薄く肥厚しない。軸唇はほとんど垂直。滑層はわずかに膨らむ。臍孔は閉じる。

【国内分布】 北海道、本州(中部以北)、伊豆諸島

【主な生息環境】 山地の落葉広葉樹林の自然林下。年間を通して湿潤な落葉下や石灰岩露頭周辺の落葉下、また石灰岩礫が散在するような環境を好む。

【県内での生息状況】 山地帯に分布。石灰岩山塊の武甲山生川(横瀬町)で1964年の記録(岡本, 1971)がある。前版刊行時と生息状況に変化はみられない。

【特記事項】 埼玉県では武甲山の記録が唯一であるが、石灰岩の採掘により生息地は消滅した。今回、再発見を試みたが未確認であった。隣接する群馬県の石灰岩山塊では叶山の記録がある(松本, 1984)。

〔目名・科名〕 異鰓目ベッコウマイマイ科  
埼玉県(2018) EX 環境省(2014) VU

〔和名〕 **レンズガイ**

〔学名〕 *Otiosiopsis japonica* (Moellendorff)  
指定状況 -

---

【形態】 殻は小型で円錐形。体層の周縁の竜骨が鋭い凸レンズ状を呈する。淡黄褐色で薄質、半透明。殻高7mm、殻径13mm内外で螺層は5層。殻口は斜位。軟体部はアメ色をしている。

【国内分布】 本州、九州

【主な生息環境】 低山帯から山地帯の落葉広葉樹林。安定した湿度で、少し湿潤な林縁部のマント群落中など。

【県内での生息状況】 低山帯から山地帯に分布。名栗川源流方面の山地帯や低山帯の鳥首峠(飯能市)で見られた(埼玉県, 2008)が近年は確認されていない。石灰岩地の林内やその周辺のマント群落などで見られる。

【特記事項】 森林伐採による日照と通風が乾燥を招き絶滅に至る。前版刊行時と生息状況に変化はみられない。

【目名・科名】	異鰓目オナジマイマイ科	埼玉県(2018)	EX	環境省(2014)	CR+EN
【和名】	<b>オモイガケナマイマイ</b>				
【学名】	<i>Aegista (Plectotropis) inexpectata</i> Kuroda & Minato	指定状況	-		
【形態】	殻は殻頂部が扁平。円盤状で体層周縁には強い竜骨を有する。臍孔は大きく開き殻径の1/3にあたる。殻色は淡黄褐色で鈍い光沢を有する。殻高3mm、殻径12mm内外で螺層は5.5層を数える。				
【国内分布】	本州（愛知県、静岡県、東京都、埼玉県）				
【主な生息環境】	石灰岩地特有の種類といわれる。石灰岩からなる山塊の落葉広葉樹林内。				
【県内での生息状況】	山地帯に分布。旧横瀬村（現横瀬町）の武甲山生川での1964年の採集記録があり、武甲山の雑木林の急斜面にある石灰岩の大きな岩肌に付着する個体やその周囲で採集されたという（岡本, 1971）。本種と共にヤマボタルガイ <i>Cionella lubrica</i> も採集されている。前版刊行時と生息状況に変化はみられない。				
【特記事項】	埼玉県では武甲山の記録が唯一であるが、石灰岩の採掘により生息地は消滅した。今回、ヤマボタルガイとともに再発見を試みたが未確認であった。隣接する群馬県では石灰岩山塊の叶山で記録がある（松本, 1984）。				

【目名・科名】	異鰓目ナンバンマイマイ科	埼玉県(2018)	CR+EN	環境省(2014)	VU
【和名】	<b>ヤセアナナシマイマイ</b>				
【学名】	<i>Satsuma (Satsuma) fausta</i> (Pilsbry)	指定状況	-		
【形態】	殻は中型でやや螺塔が高く体層の周縁は円みもち膨らむ。殻口は斜位で円い。臍孔は閉じる。殻色は淡黄褐色で光沢があり成熟すると上部の殻皮が剥がれ白色のまだら模様となる。殻高14mm、殻径13mm内外で螺層は5～6層を数える。				
【国内分布】	本州（静岡県、神奈川県、埼玉県）				
【主な生息環境】	山地帯の落葉広葉樹林の自然林下に生息。				
【県内での生息状況】	山地帯に分布。旧荒川村（現秩父市）の熊倉山麓や旧大滝村（現秩父市）の三峰山周辺の記録があり極めて希産とあるが（埼玉県, 2008）、今回の調査により新たに秩父市大滝の中津川において再発見された。当生息地は現在のところ県内唯一となっており局地的で生息個体数も少ない。				
【特記事項】	再発見の場所は生息個体数が少ないことから、林道の造成や森林伐採による日照、通風などの変化によっては絶滅の危険がある。隣接する群馬県では叶山から本種を確認している（松本, 1984）。				

【目名・科名】	異鰓目ナタネガイ科	埼玉県(2018)	CR	環境省(2014)	-
【和名】	<b>ナタネガイ</b>				
【学名】	<i>Punctum amblygonum</i> (Reinhardt)	指定状況	-		
【形態】	殻は微小で薄質の右巻き貝。殻高2mm、殻径2.5mm内外。螺層は4.5層内外。やや扁平。黒褐色で体層周縁には鈍い角を有する。臍孔は明らかに開く。				
【国内分布】	本州、四国				
【主な生息環境】	低山帯～山地帯の落葉広葉樹林のマント群落下や落葉、岩石の裏などに付着する。低山地の緩斜面で比較的湿潤な安定した環境の落葉下にも生息する。				
【県内での生息状況】	山地帯から低山帯に分布するが希産。武甲山西麓の橋立（秩父市）の記録がある（前田・高橋・大熊, 1970）。前版刊行時と生息状況に変化はみられない。				
【特記事項】	種名のナタネは、菜種のように微小な貝殻であることに由来したといわれる。				

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

〔目名・科名〕 異鰓目ベッコウマイマイ科  
埼玉県(2018) CR 環境省(2014) -

〔和名〕 **ウゼンシタラガイ**

〔学名〕 *Parasitala ultima* (Hirase) 指定状況 -

---

【形態】 殻は小型、極めて薄質で淡黄色。円錐形で縫合はやや浅い。もろく破損しやすい。殻の周縁の角は鋭く、殻高、殻径ともに3.5mm内外。螺層は4～5層内外。臍孔は狭く小さく開く。

【国内分布】 本州（秋田県、群馬県、埼玉県、岐阜県）

【主な生息環境】 丘陵地～低山にかけての自然林下。

【県内での生息状況】 低山帯に分布。飯能市吾野にて反田（1973）により採集された（埼玉県，2008）。北方系の貝と言われている。前版刊行時と生息状況に変化はみられない。

【特記事項】 林床部の荒廃、斜面林の伐採などがあると絶滅の危険性が増大する。

〔目名・科名〕 異鰓目キバサナギガイ科  
埼玉県(2018) EN 環境省(2014) CR+EN

〔和名〕 **キバサナギガイ**

〔学名〕 *Vertigo hirasei* Pilsbry 指定状況 -

---

【形態】 殻高1.8mm、殻径1.2mm内外。螺層は約4.5層を数える。殻表は滑らかで、殻色は茶褐色で強い光沢を有する。殻口少し狭くて三角形。内唇に大きな1歯、軸唇の少し内方に歯状板があり、外唇には2個の平行の襞がある。内唇に大きな歯を1つ持つことが種名の由来と考えられる。

【国内分布】 本州、九州、琉球列島（沖永良部島）

【主な生息環境】 水辺や比較的湿潤な土壌のヨシの葉や茎あるいは泥土上に見られる。流水域より止水域に生息するが、水質悪化に弱い。

【県内での生息状況】 低地帯に分布。県内では、1970年代に行田市の行田新田に普通に見られ、その後1980年代前半は久喜市菖蒲公園でも多数採集された記録がある（埼玉県，2008）が、現在ではいずれも確認できない。前版刊行時と生息状況に変化はみられない。

【特記事項】 微小貝のため、ルーペによる個体確認が必要であり発見は困難である。既知産地の環境変化が危惧される。

〔目名・科名〕 異鰓目キセルガイ科  
埼玉県(2018) EN 環境省(2014) -

〔和名〕 **オオタキコギセル**

〔学名〕 *Euphaedusa digonoptyx* (Boettger) 指定状況 -

---

【形態】 殻は小型で細長い紡錘形で黄褐色。殻表には粗い成長脈がある。殻口は体層よりやや突き出ていて洋梨形。殻高13mm、殻径3mm内外。螺層は10層内外。唇縁は白く厚くひろがり反転する。

【国内分布】 本州（東北地方、関東地方、北陸地方、信越地方、佐渡島）

【主な生息環境】 落葉広葉樹林の自然林下に生息する。大樹の樹洞や樹皮下、地表の朽木下や樹幹に付着する。

【県内での生息状況】 低山帯から台地・丘陵帯に分布。山地の落葉広葉樹林の自然林下に局地的に生息。樹幹や地表の朽木などに付着する。小鹿野町二子山（松本，1997b）、秩父市浦山広河原、旧吉田町（現秩父市）合角などに見られる。また、飯能市、滑川町（埼玉県，2008）の記録もある。

【特記事項】 各地で生息を確認した場合でも、1回の調査で目撃できる個体数は1～2個体と少ない。

〔目名・科名〕	異鰓目オカモノアラガイ科	埼玉県(2018)	EN	環境省(2014)	-
〔和名〕	<b>オカモノアラガイ</b>				
〔学名〕	<i>Succinea lauta</i> Gould	指定状況			-
【形態】	殻は非常に薄質で光沢のある淡黄褐色。体層はよく膨らみ、殻口は卵形で広い。殻高25mm、殻径15mm内外。螺層は3層内外。				
【国内分布】	北海道、本州（関東以北、佐渡島）				
【主な生息環境】	平地や丘陵地の農耕地や草地、水路脇など湿潤な草地や水辺の開放的な草地などに見られる。				
【県内での生息状況】	台地・丘陵帯に分布。県西部の丘陵から低山の裾にみられる農耕地、水田の畦道、水路沿いの草地などに群生し、かつては農作物を荒らす害虫と言われたが、近年は生息地、個体数ともに激減した。				
【特記事項】	これまでの防除効果により現在は各地で希少となっている。殻形は淡水産のモノアラガイ類に似るが、軟体部はモノアラガイ類は触覚の基部に眼があり、オカモノアラガイ類はマイマイ類と同様、触覚の先に眼がある。				

〔目名・科名〕	異鰓目ベッコウマイマイ科	埼玉県(2018)	EN	環境省(2014)	DD
〔和名〕	<b>オオウエキビ</b>				
〔学名〕	<i>Trochochlamys fraterna</i> (Pilsbry)	指定状況			-
【形態】	殻は小さく淡い黄褐色。円味のある円錐形。縫合は深く、螺層はよく膨れ周縁の竜骨は鋭い。殻高2mm、殻径1.6mm内外。螺層は6層内外で殻口は菱形。軸唇は臍孔の一部を被い臍孔は狭く開く。				
【国内分布】	本州、四国、九州				
【主な生息環境】	丘陵地～低山地の落葉広葉樹林の自然林下に生息する。				
【県内での生息状況】	低山帯に分布。外秩父山地や武甲山系などの落葉広葉樹林下に生息する。武甲山では秩父市橋立（標高300m）付近の石灰岩地の落葉中に見られる（松本，1987）。				
【特記事項】	近年はいずれの産地でも希産である。林床部の荒廃や斜面林の伐採などがあると絶滅の危険性が増大する。				

〔目名・科名〕	異鰓目ベッコウマイマイ科	埼玉県(2018)	EN	環境省(2014)	NT
〔和名〕	<b>ヒメハリマキビ</b>				
〔学名〕	<i>Parakaliella pagoduloides</i> (Gude)	指定状況			-
【形態】	殻は極めて小さく、淡黄褐色の円錐形。殻高2mm、殻径2.5mm内外。螺層は5～6層でよく膨れ、体層周縁は丸く感じる。殻表は滑らかで光沢がある。殻口は狭く少し反転している。				
【国内分布】	本州、四国、九州				
【主な生息環境】	低山帯の落葉広葉樹林下に見られるが希産である。				
【県内での生息状況】	低山帯に分布。山地の落葉広葉樹林の自然林下に生息する。武甲山橋立（秩父市）では川名（1978）の記録がある。前版刊行時より生息状況に変化はみられない。				
【特記事項】	林床部の荒廃や斜面林の伐採などがあると絶滅の危険性が増大する。				

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

〔目名・科名〕 異鰓目ベッコウマイマイ科  
埼玉県(2018) EN 環境省(2014) NT

〔和名〕 **スジキビ**

〔学名〕 *Parakaliella ruida* (Pilsbry) 指定状況 -

---

【形態】 殻は微小で薄質、極めてもろい。淡黄褐色をしますが光沢はない。やや扁平の円錐形で、軟体部は黒い。殻高2mm、殻径3mm内外。螺層は3.5層内外。体層周縁は鋭い竜骨状の角があり、殻表には密に規則的な肋状の成長脈が現れる。殻口は三日月形で周縁はうすい。

【国内分布】 本州（東北地方、関東地方、北陸地方、近畿地方）

【主な生息環境】 低山～山地の落葉広葉樹林の自然林下落葉中に見られる。

【県内での生息状況】 山地帯に分布。旧大滝村（現秩父市）の三峰山奥の宮付近の朽木上で確認された記録がある（埼玉県, 2008）。この付近はブナ類も見られる落葉広葉樹林の自然林である。本種はキビガイ類の中でも特に希産といわれる。前版刊行時と生息状況に変化はみられない。

【特記事項】 林床部の壊変や斜面林の伐採などがあると絶滅の危険性が增大する。

〔目名・科名〕 異鰓目ベッコウマイマイ科  
埼玉県(2018) EN 環境省(2014) NT

〔和名〕 **ウメムラシタラガイ**

〔学名〕 *Sitalina japonica* Habe 指定状況 -

---

【形態】 殻は微小で薄質の低円錐形となる。殻色は淡黄褐色で光沢はない。殻高1.2mm、殻径1.8mm内外。螺層は4.5層を数える。殻口は円く、臍孔はわずかに開く。体層の周縁に3本の螺状肋がある。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 落葉広葉樹の自然林で、比較的安定した湿潤な落葉中に見られる。

【県内での生息状況】 低山帯から台地・丘陵帯に分布。外秩父山地に見られるが希産。武甲山や秩父市浦山の落葉広葉樹林の自然林下に生息。武甲山では標高300m内外の山麓に生息する（松本, 1987）。

【特記事項】 林道の造成や林床部の荒廃、斜面林の伐採などがあると絶滅の危険性が增大する。

〔目名・科名〕 異鰓目ベッコウマイマイ科  
埼玉県(2018) EN 環境省(2014) -

〔和名〕 **オオクラヒメベッコウ**

〔学名〕 *Yamatochlamys lampra* (Pilsbry & Hirase) 指定状況 -

---

【形態】 殻は小型で扁平。殻表は滑らかな淡黄褐色で半透明、光沢を有する。殻高3mm、殻径4mm内外。螺層は5～5.5層。螺塔は低円錐形で体層周縁は円い。殻口は三日月形、臍孔はややくぼむ。

【国内分布】 本州、四国、九州（南部および対馬）、南西諸島（種子島、口の永良部島）

【主な生息環境】 低山から山地の落葉広葉樹林の自然林下。

【県内での生息状況】 山地帯に分布するが希産。武甲山では標高600m～900m付近の落葉広葉樹林の自然林下で、湿潤で厚さのある落葉下（松本, 1987）や、石灰岩や礫が散在する落葉下にも見られる。

【特記事項】 林道の造成や斜面林の伐採などがあると絶滅の危険性が增大する。

【目名・科名】	異鰓目ベッコウマイマイ科	埼玉県(2018)	EN	環境省(2014)	-
【和名】	ツノイロヒメベッコウ				
【学名】	<i>Ceratochlamys ceratodes</i> (Gude)	指定状況	-		
【形態】	殻は小型で薄質、円錐形。淡黄褐色でやや光沢を有する。殻高 3.5mm、殻径 5mm 内外。螺層は 5～6 層を数える。体層周縁の竜骨はやや発達し、臍孔は無い。軟体部は黒い。				
【国内分布】	本州、四国、九州				
【主な生息環境】	低山帯の落葉広葉樹林下の落葉中で湿潤な環境。				
【県内での生息状況】	山地帯から低山帯に分布。武甲山系や三峰山系に分布するが希産。武甲山では標高 600 m～900 m の落葉広葉樹林下でやや厚く積もる落葉中に見られる（松本, 1987）。石灰岩や礫が混在する落葉下にも見られるが生息地は少ない。				
【特記事項】	森林伐採による日照と通風による乾燥が生息には不適。林道の造成や斜面林の伐採などがあると絶滅の危険性が增大する。				

【目名・科名】	異鰓目ベッコウマイマイ科	埼玉県(2018)	EN	環境省(2014)	DD
【和名】	キヌツヤベッコウ				
【学名】	<i>Nipponochlamys semisericata</i> (Pilsbry)	指定状況	-		
【形態】	殻は小型で扁平、薄質。螺層は 5 層を数える。また螺層の周縁に光沢を有する特徴がある。殻高 3mm、殻径 5mm 内外。縫合は深く、殻口はやや斜位に開き、臍孔もはっきり開く。軟体部は黒い。				
【国内分布】	本州、四国				
【主な生息環境】	低山や山地の落葉広葉樹林下の落葉中。				
【県内での生息状況】	山地帯から低山帯に分布。三峰山系や武甲山系に生息する。武甲山では標高 700 m～1,200 m 付近の落葉広葉樹林下の厚い落葉下に見られる（松本, 1987）。また石灰岩や礫が混在する落葉中からも見いだされる。小鹿野町長久保の石灰岩地での記録もある（松本, 1989g）。				
【特記事項】	森林伐採と林道開発などで日照や通風などによる乾燥は絶滅の危険性が增大する。本種は殻表に絹のような光沢がある美しい種類。				

【目名・科名】	イシガイ目イシガイ科	埼玉県(2018)	EN	環境省(2014)	NT
【和名】	マツカサガイ				
【学名】	<i>Inversidens japonensis</i> (Lea)	指定状況	-		
【形態】	殻は厚く卵形。殻頂は低く前にやや傾く。主齒は強く三角形で平たい。殻表に目立ったさざ波模様がある。黒色で鈍い光沢がある。殻高 30mm、殻長 55mm 内外。				
【国内分布】	本州、四国、九州				
【主な生息環境】	小川や水路、ため池、湖などの砂礫床に生息。また河川の川底に小石や砂利の多い緩やかな流れにみられる。				
【県内での生息状況】	低地帯から台地・丘陵帯に分布するが希産。主に比企丘陵に見られたが生息確認地は少ない。越生町の記録もある（川名・松本, 1985）。近年、本種の新たな生息地が確認された（三浦ほか, 2014）。				
【特記事項】	本種はヨコハマシジラガイと酷似するため両種の分類には注意を要する。タナゴ類の産卵母貝として知られている。				

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物



哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

〔目名・科名〕 新生腹足目ヤマタニシ科  
 〔和名〕 **サドヤマトガイ**  
 〔学名〕 *Japonia sadoensis* Pilsbry & Hirase  
 埼玉県(2018) VU 環境省(2014) NT  
 指定状況 -

【形態】 殻高 4.3mm、殻径 5.1mm 内外で小型。螺層は 5 層を巻く。円錐形で暗褐色、殻表に微小な糸状の斜めの条が規則的に配列している。次体層の中央に 1 列と体層の中央部に 2 列の毛状の突起物が密に現れる。殻口は斜位で円くその口縁は薄い。臍孔はやや深い。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 丘陵地から山地の落葉広葉樹林の自然林下に生息する。

【県内での生息状況】 台地・丘陵帯から低山帯に分布。落葉広葉樹林下に局地的に生息する。疎林などにも見られる。武甲山麓では落葉広葉樹林のマント群落下の記録（松本，1987）がある。また近年では生息確認地が 1 年後に土地造成工事により消失してしまった事例もある。

【特記事項】 武甲山では標高 500 m～1,000 m にかけて生息し、500 m 付近はヤマアジサイの密生する杉林の林床下で礫も混ざる落葉間、1,000 m 付近は落葉広葉樹林の自然林下落葉中であつた（松本，1987）。

〔目名・科名〕 新生腹足目ヤマタニシ科  
 〔和名〕 **アツブタガイ**  
 〔学名〕 *Cyclotus (Procyclus) campanulatus* Martens  
 埼玉県(2018) VU 環境省(2014) -  
 指定状況 -

【形態】 右巻きで殻高 10mm、殻径 14mm 内外。螺層は 4 層内外。螺塔は低平な円錐形。螺管は急に太くなる。体層の周縁は円い。殻口は円形で口縁は肥厚し、円い石灰質の蓋をもつ。臍孔は広大で前面から各螺層の一部がみられる。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 貝殻に蓋を持つため乾燥に強い。山地の落葉広葉樹林下や稀に杉林の林縁部にも見られる。古木がある社寺林下など、やや乾燥した落葉下や礫中にもみられる。

【県内での生息状況】 台地・丘陵帯から低山帯に分布。寄居町（松本，1981）、神川町（松本，1989a）、旧兒玉町（現本庄市）（松本，1993b）、長瀨町（松本，1997a）、旧神泉村（現神川町）（松本，1999a.b）、小川町（松本・須永，2000b）、嵐山町（松本・須永，2005a）、秩父市伊古田など各地にみられるが生息地は局地的。

【特記事項】 県内では人の生活圏に近い丘陵地から低山地に分布するため、土地造成や森林伐採による生息地の消失が危惧される。

〔目名・科名〕 新生腹足目ヤマタニシ科  
 〔和名〕 **ミジンヤマタニシ**  
 〔学名〕 *Nakadaella micron* (Pilsbry)  
 埼玉県(2018) VU 環境省(2014) -  
 指定状況 -

【形態】 貝殻は微小で殻高 1mm、殻径 2mm 内外。螺層は 3.5 層内外。灰白色で半透明の貝殻を持つ。殻口は円く蓋をもつ。臍孔は広い。よくみると殻表には規則的に多くの肋状脈がある。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 台地や丘陵地、低山地の落葉広葉樹林の自然林下にみられるが、落葉下の隙間で活動し微小で発見は困難である。

【県内での生息状況】 低山帯や山地帯に分布。主に落葉広葉樹林下に生息するが希産。武甲山では標高 700 m～800 m で確認（松本，1987）。また、旧名栗村（現飯能市）の白岩沢上流（松本，1989e）、旧両神村（現小鹿野町）（松本，1993c）、旧大滝村（現秩父市）滝の沢（松本，1994b）、旧神泉村（現神川町）（松本，1999a.b）、旧大滝村（現秩父市）の大血川東谷など、石灰岩地にも局地的に分布。

【特記事項】 微小な貝殻だが独特な殻形から他種との区別は容易である。和名にタニシとあるが水生のタニシではなく陸生（ヤマ）の種類である。

〔目名・科名〕	新生腹足目タニシ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2014)	NT
〔和名〕	<b>マルタニシ</b>				
〔学名〕	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i> (Martens)	指定状況			-
【形態】	貝殻は丸みがかかった卵形で殻質は薄く中型。螺層は約6層で体層はよくふくらむ。殻高は40mm位になる。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州、南西諸島（沖縄）				
【主な生息環境】	池沼、水田やその側流、湿地、水路など流れが弱く、水深が浅い水域に生息。また水田や湿地など年間を通して乾燥しない場所に生息する。				
【県内での生息状況】	低地帯から台地・丘陵帯に分布。旧江南町（現熊谷市）（松本・須永, 1998c.d）、小川町（松本・須永, 2000b）、嵐山町（松本・須永, 2005a）などで見られたが、近年、良好な生息環境はわずかに残るのみで、水田のような止水域では生息地、個体数ともに減少している。				
【特記事項】	人の生活圏と接した生息地が多いため、圃場整備などがあるとその場所の生息地は消失してしまう。				

〔目名・科名〕	新生腹足目タニシ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2014)	NT
〔和名〕	<b>オオタニシ</b>				
〔学名〕	<i>Cipangopaludina japonica</i> (Martens)	指定状況			-
【形態】	殻高66mm、殻径44mm内外となる大型の種類。螺層は7層を数え体層底部の周縁角がより発達する。				
【国内分布】	本州、四国、九州				
【主な生息環境】	主に止水域で、比較的水深が深く広い池沼にみられる。前種マルタニシ <i>C. chinensis</i> より生息地の水系が限られる。				
【県内での生息状況】	低山帯から台地・丘陵帯に分布する。嵐山町（松本・須永, 2005a）や小川町などに見られるが、生息地が減少している。本種が生息する池沼では個体数が多くみられる場合もあるが、分布は局地的である。近年、秩父市伊古田からも生息が記録された。				
【特記事項】	和名のとおり大型になる。これまでの調査で得られた最大個体は殻高87.5mm、殻径57.0mmである。かつては大型に成長する個体も見られたが近年は稀である。生息地の水質悪化が危惧される。				

〔目名・科名〕	異鰓目カワコザラガイ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2014)	-
〔和名〕	<b>カワコザラガイ</b>				
〔学名〕	<i>Laevapex nipponica</i> (Kuroda)	指定状況			-
【形態】	貝殻は笠型。殻高1.5mm、殻径5mm内外。薄い殻質で殻頂はやや後方に位置する。殻表には不規則な成長脈がある。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州、南西諸島（沖縄）				
【主な生息環境】	農耕地の溜め池や水路、湖や河川などの緩流域の水草や落葉などに付着する。				
【県内での生息状況】	低地帯に分布するが希産。旧鷲宮町（現久喜市）、久喜市、行田新田、川越市伊佐沼、荒川旧河川の池沼に普通にみられたが現在は減少している（埼玉県, 2008）。近年、低地帯では生息地、個体数ともに激減している。				
【特記事項】	生息地は土地造成などの影響を受け減少し個体数も少ない。また、河川の増水により流路わきの池沼（生息地）などは消滅することがある。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

〔目名・科名〕 異鰓目マキゾメガイ科  
〔和名〕 **マルナタネガイ**  
〔学名〕 *Parazoogenetes orcula* (Benson)  
指定状況  
埼玉県(2018) VU 環境省(2014) -  
【形態】 貝殻は殻高2mm、殻径2mm内外で微小。殻は薄く、螺層は3.5層を数える。殻表は淡褐色から黒褐色で平滑。種名のとおり葉種状。  
【国内分布】 本州、四国、九州  
【主な生息環境】 自然林内の柑橘類の樹上や樹皮下、樹幹部や樹皮のくぼみで見られる。  
【県内での生息状況】 山地帯から低山帯、台地・丘陵帯に分布するが希産。近年は各地で見られることが少なくなった。旧名栗村（現飯能市）の鳥首峠や秩父市橋立の記録（川名, 1978）があるが、現在は生息場所が不明なところが多い。前版刊行時と生息状況に変化はみられない。  
【特記事項】 樹幹部や樹皮に付着する微小貝のため、ルーペによる個体確認が必要であることから発見は困難である。既知産地の環境悪化が危惧される。

〔目名・科名〕 異鰓目キセルガイ科  
〔和名〕 **キヌハダギセル**  
〔学名〕 *Mundiphaedusa discrepans* Kuroda & Habe, in Azuma  
指定状況  
埼玉県(2018) VU 環境省(2014) -  
【形態】 貝殻は殻高24mm、殻径5mm内外。螺層は約12層を数える。大きさは生息地によって変異がある。殻表は絹糸状脈で黄緑～黄褐色、殻口は卵状の洋梨形。  
【国内分布】 本州（群馬県、新潟県、長野県、山梨県、埼玉県）  
【主な生息環境】 山地の落葉広葉樹林の自然林下、落葉中や石灰岩地に生息する。  
【県内での生息状況】 山地帯に分布するが希産。秩父郡小鹿野町の二子山（松本, 2006）や秩父市大滝の中津川、大山沢（松本, 2006）、仏石山などの石灰岩地に生息する。生息地は局地的で個体数も少ない。落葉広葉樹林下でコケが付着した大きな岩が散在する林床部に見られる。  
【特記事項】 これまでの既知産地でも生息個体数は少なく希産である。林道工事や森林伐採による生息環境の悪化が危惧される。殻表には絹のような光沢がある美しいキセルガイである。

〔目名・科名〕 異鰓目キセルガイ科  
〔和名〕 **ヤグラギセル**  
〔学名〕 *Mundiphaedusa yagurai* (Kuroda)  
指定状況  
埼玉県(2018) VU 環境省(2014) VU  
【形態】 殻高12～19mm、殻径3～4.8mmと産地によって変異がある。螺層は約8層を数える。殻頂部が丸みを帯びているため、やや太く感じる。殻色は淡橙色～赤橙色で美しい。  
【国内分布】 本州（東京都の奥多摩～埼玉県の秩父地方の石灰岩地）  
【主な生息環境】 低山地～山地の落葉広葉樹林の自然林下で石灰岩があるような場所に生息する。  
【県内での生息状況】 山地帯に分布するが希産。武甲山（松本, 1987）、旧大滝村（現秩父市）の大血川（松本, 1989c）や三峰山周辺、飯能市の名栗山地といった石灰岩地などに生息する。今回、小鹿野町両神の非石灰岩地域にも生息する事が確認された。いずれの生息地も局地的で確認個体数も数個体と少ない。  
【特記事項】 両神など新たな生息地が確認されたが希産である。当地の生息地も脆弱で遊歩道の整備や森林伐採などの影響が危惧される。

〔目名・科名〕 異鰓目キセルガイ科  
〔和名〕 **チチブギセル**  
〔学名〕 *Stereophaedusa oostoma chichibuensis* Sorita & Azuma  
指定状況  
埼玉県(2018) VU 環境省(2014) -  
【形態】 殻高23.4mm、殻径4.7mm。螺層は約12.5層を数える。細長い紡錘形で光沢があり、茶褐色。成長脈は細く密に規則的に現れる。殻口は洋梨形。  
【国内分布】 本州（埼玉県）  
【主な生息環境】 山地の落葉広葉樹林の自然林下、落葉中。ブナ類が繁茂する樹林帯。  
【県内での生息状況】 山地帯に分布するが希産。秩父市大滝三峰ではイヌブナなどの樹林下の落葉中に生息する。大滝村（当時）の惣小屋谷では1974年5月の調査ではツツジ科の低灌木の根本に生息していたが現在は立ち入りができず生息状況は不明である。  
【特記事項】 埼玉県特産種。生息が確認できた場合も発見できるのは1～2個体と少ない。

【目名・科名】	異鰓目オカモノアラガイ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2014)	NT
【和名】	<b>ナガオカモノアラガイ</b>				
【学名】	<i>Oxyloma hirasei</i> (Pilsbry)	指定状況	-		
【形態】	殻は淡黄褐色で薄質、やや光沢がある。螺塔が高く体層は細く長い。殻高12.5mm、殻径6.5mm内外。螺層は2.5層内外。				
【国内分布】	本州（関東から関西地方）、九州				
【主な生息環境】	低地の湿地や水辺の草地、湿潤な水路脇や草地。				
【県内での生息状況】	低地帯に分布。荒川低地や中川・加須低地の水辺のヨシの茎や葉上にみられる（埼玉県、2008）。古くは三郷市や吉川市などの記録がある（川名、1978）。前版刊行時と生息状況に変化は見られない。				
【特記事項】	殻形はオカモノアラガイに似るが小型で螺層数も少ない。殻形が水生のモノアラガイに似ているが本種は陸生の貝。				

【目名・科名】	異鰓目ベッコウマイマイ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2014)	NT
【和名】	<b>タカキビ</b>				
【学名】	<i>Trochochlamys praealta praealta</i> (Pilsbry)	指定状況	-		
【形態】	殻は螺塔が著しく高く円錐形。螺層数も多く9層を巻く。淡褐色で光沢を有する。体層には周縁角を有する。臍孔は小さく開く。殻口は半円形。殻高3.5mm、殻径2.5mm内外。軟体部はアメ色。				
【国内分布】	本州				
【主な生息環境】	落葉広葉樹林の自然林下で湿潤な落葉層中に見られる。林床部の落葉と石灰岩礫などが混在する場所にも見られる。				
【県内での生息状況】	低山帯から台地・丘陵帯に分布するが希産。県西部山地の石灰岩地や周辺の落葉広葉樹林下に生息する。武甲山では標高300m～500m付近の落葉下に見られた（松本、1987）。				
【特記事項】	和名のようにキビガイ類の中では螺塔が高いことから分類上の指標となる。林床部の荒廃や斜面林の伐採などがあると絶滅の危険性が增大する。				

【目名・科名】	異鰓目ベッコウマイマイ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2014)	DD
【和名】	<b>サドタカキビ</b>				
【学名】	<i>Trochochlamys xenica</i> (Pilsbry & Hirase)	指定状況	-		
【形態】	殻は淡黄褐色で半透明。やや高い螺塔の円錐形。螺塔側面に細かい筋条がある。殻高5mm、殻径3mm内外。螺層は7層を数え、体層周縁には鈍い角がある。殻口の唇縁は薄く、軸唇縁は少し反曲。				
【国内分布】	本州、佐渡島				
【主な生息環境】	丘陵地や低山地の落葉広葉樹林の自然林下落葉中に見られる。				
【県内での生息状況】	低山帯から台地・丘陵帯に分布するが希産。落葉広葉樹林下の落葉中に生息する。武甲山橋立（秩父市）の石灰岩地では地表の厚い落葉層中に見られる（松本、1987）。				
【特記事項】	前種タカキビと比較するとやや希少性が高い。林床部の荒廃や斜面林の伐採などがあると絶滅の危険性が增大する。				

【目名・科名】	異鰓目ベッコウマイマイ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2014)	-
【和名】	<b>マルシタラガイ</b>				
【学名】	<i>Parasitala reinhardtii</i> (Pilsbry)	指定状況	-		
【形態】	殻は小型で薄質、円錐形。淡黄灰褐色で鈍い光沢を有する。殻高4mm、殻径5mm内外。体層周縁は丸く感じる。殻口は広く半円形でその周縁はうすくもろい。				
【国内分布】	本州、四国、九州、五島（福江島）、屋久島				
【主な生息環境】	低地や低山地の記録がある。低山地では落葉広葉樹林の自然林下や石灰岩地の落葉下に見られる。				
【県内での生息状況】	低山帯に分布するが希産。古くは中川・加須低地に属する久喜市の呑竜寺において、1980年代前半頃確認された記録がある（埼玉県、2008）。低山帯では秩父市大滝滝の沢（松本、1994b）、旧吉田町（現秩父市）合角（松本、1992）の記録があるが、いずれの地域でも確認個体数は1、2個体と少ない。				
【特記事項】	低地や低山の記録があるがその分布は局地的である。石灰岩地にも分布する。大規模な地形の改変、落葉広葉樹林や斜面林の伐採などがあると絶滅の危険性が增大する。				

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

【目名・科名】 異鰓目ベッコウマイマイ科  
 【和名】 **ヒラベッコウガイ**  
 【学名】 *Bekkochlamys micrograpta* (Pilsbry)  
 埼玉県(2018) VU 環境省(2014) DD  
 指定状況 -

【形態】 本属としては大きい。殻高5mm内外。殻径8～10mmに至る円盤状で、螺層は5層を数える。殻色は鼈甲色で平滑、光沢を有する。殻質は極めて薄質で、殻口は肥厚も反曲もしない。臍孔は開く。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 丘陵地～低山帯の落葉広葉樹林下や林縁部のマント群落等の草叢にも見られる。

【県内での生息状況】 低山帯から台地・丘陵帯に分布するが希産。武甲山系や秩父市浦山、飯能市の低山地の記録がある。山地の落葉広葉樹林下で地表に落葉が積もる場所に見られる。石灰岩や礫が散在する落葉下にも見られる。武甲山では標高400m～500m付近に見られた(松本, 1987)。

【特記事項】 乾燥に弱く、林道の造成や斜面林やマント層の伐採などがあると絶滅の危険性が增大する。

【目名・科名】 異鰓目ベッコウマイマイ科  
 【和名】 **ハクサンベッコウ**  
 【学名】 *Nipponochlamys hakusanus* (Pilsbry & Hirase, in Hirase)  
 埼玉県(2018) VU 環境省(2014) DD  
 指定状況 -

【形態】 殻は小型で扁平な円錐形。殻色は黄褐色で薄質、半透明。螺層は4.3層内外。殻高4mm、殻径7mm内外。体層の幅は次体層の2倍近い。周縁の前方に微角がある。殻口は少し斜位で、広い新月形。臍孔は狭く深い。

【国内分布】 本州、四国

【主な生息環境】 低山帯～山地帯の落葉広葉樹林の自然林下

【県内での生息状況】 山地帯から低山帯に分布するが希産。主な記録は武甲山や秩父市浦山広河原、小鹿野町の二子山などがある。武甲山では標高500m～1,200mにかけての山地帯落葉下に見られた(松本, 1987)が、現在は目撃個体数も減少気味である。

【特記事項】 乾燥に弱く、林道の造成や斜面林の伐採などがあると絶滅の危険性が增大する。

【目名・科名】 異鰓目ナンバンマイマイ科  
 【和名】 **コベソマイマイ**  
 【学名】 *Satsuma (Satsuma) myomphala myomphala* (Martens)  
 埼玉県(2018) VU 環境省(2014) -  
 指定状況 -

【形態】 殻は大型で殻質は薄く螺塔はやや低い。周縁に赤褐色の色帯がある。殻色は淡黄褐色～赤褐色。殻高25mm、殻径30mm内外で螺層は約6層を数える。殻口は斜位でやや広い半円形。臍孔は閉じる。

【国内分布】 本州(中部以西)、四国、九州

【主な生息環境】 丘陵地から低山地の落葉広葉樹林の自然林下に生息。

【県内での生息状況】 山地帯から低山帯、台地・丘陵帯に分布するが希産。主に秩父山地の秩父市大滝や尾田蒔丘陵、小鹿野町(松本, 1989g)、嵐山町(松本・須永, 2005a)や小川町などの丘陵地の落葉広葉樹林の朽木や根元のウロなどに見られるが少ない。

【特記事項】 殻色がピンクがかった赤褐色とともに貝殻の周縁にある1本の色帯が美しい種類。臍孔が閉じるなど特徴的である。雑木林の伐採や歩道の造成などによる環境の変化で絶滅の危険がある。

【目名・科名】 異鰓目オナジマイマイ科  
 【和名】 **ミヤマヒダリマキマイマイ**  
 【学名】 *Euhadra scaevola scaevola* (Martens)  
 埼玉県(2018) VU 環境省(2014) VU  
 指定状況 -

【形態】 殻は中型の左巻き貝。螺塔はやや低く殻表に成長脈が顕著に現れる。殻高18mm、殻径30mm内外。本県産はやや小型。濃い茶褐色で殻口は円く、螺層は約5層を数える。

【国内分布】 本州(関東山地西部、静岡県)

【主な生息環境】 山地帯の落葉広葉樹林の自然林下で、落葉が積もる林床部にみられる。

【県内での生息状況】 山地帯に分布するが希産。武甲山(松本, 1987)や秩父市の浦山広河原谷、三峰山系、大滝中津川などに生息する。武甲山系では石灰岩や礫が散在する落葉広葉樹林の自然林下に見られるが、各地での個体数は少ない。

【特記事項】 本県では和名のミヤマが示すように深山に確認記録がある。また、学名の *scaevola* (希)の示すとおり極めて希産と言われる(埼玉県, 2008)。林道の造成や斜面林の伐採などで絶滅の危険性が增大する。

〔目名・科名〕	イシガイ目イシガイ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2014)	NT
〔和名〕	<b>カラスガイ</b>				
〔学名〕	<i>Cristaria plicata</i> (Leach)	指定状況			-
【形態】	貝殻が大型になることで有名。殻質は薄く幼貝には翼状突起があるが老成貝では消失し波状の皺が残る。主歯は無く背縁後方に側歯がある。殻高118mm、殻長196mm内外。				
【国内分布】	本州				
【主な生息環境】	主に平野部の湖沼や大河川の入り江などに生息。				
【県内での生息状況】	低地帯に分布。主に中川・加須低地の水系に生息するが生息地や個体数は減少している。旧北川辺町（現加須市）の駒場周辺にも生息し、同地での1988年の調査記録では、殻高190mm、殻長331mmの大型個体を確認している（松本, 1988）。				
【特記事項】	近年、生息地は水質の悪化や圃場整備、土地造成などの影響を受け、個体数の減少が危惧される。				

〔目名・科名〕	異鰓目ヒラマキガイ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2014)	DD
〔和名〕	<b>ヒラマキミズマイマイ</b>				
〔学名〕	<i>Gyraulus chinensis</i> Dunker	指定状況			-
【形態】	殻は円盤状平巻き型で黄褐色、薄質で各螺層は殻頂へ次第に細く巻いている。体層周縁部は角張り、臍孔は大きい。殻高2mm、殻径7mm内外。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州、南西諸島（沖縄）				
【主な生息環境】	主に緩やかな流れの水域にみられる。池や沼、水田などの水草や浮遊物に付着する。				
【県内での生息状況】	台地・丘陵帯から低地帯に分布。これまでに比企丘陵の小川に知られているが、その分布は極めて局所的であり生息地の減少化が進んでいる（埼玉県, 2008）。前版刊行時と生息状況に変化はみられない。				
【特記事項】	本種はヒラマキガイモドキ <i>Polypylis hemisphaerula</i> に似るが、各螺層が殻頂へ次第に細く巻くことや、体層の周縁には角があることで区別できる。				

〔目名・科名〕	異鰓目キセルガイ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2014)	NT
〔和名〕	<b>オオトノサマガセル</b>				
〔学名〕	<i>Mundiphaedusa rex</i> (Pilsbry)	指定状況			-
【形態】	貝殻は殻高32mm、殻径9mm内外。螺層は11層を数える。殻表は栗色で強い光沢がある美しい種類。胎殻が円いため貝殻全体がずんぐりして見えるのが特徴。				
【国内分布】	関東西部（山地）～静岡県東部				
【主な生息環境】	山地の落葉広葉樹林の自然林下、落葉中に見られる。コケにおおわれた石灰岩や礫が散在する落葉下の隙間などにも生息する。				
【県内での生息状況】	山地帯に分布。山地の落葉広葉樹林下や石灰岩が散在する場所に局地的に生息する。飯能市名栗（松本, 1989e）から武甲山系にかけて生息する。繁殖行動（交尾）は5月の観察がある（松本, 2012）。幼貝は梅雨時など活発に移動し樹幹部を1～2m登ることがある。大滝では標高1,400mの産地も確認されている（松本, 1994a）。				
【特記事項】	生息地、個体数ともに少ない。既知産地でも生息個体数が少なく希産であるため、今回新たに掲載種として加えたものである。岩礫地にも生息するため、大雨などで地形が崩れた産地もあり、自然災害による生息地の消滅も危惧される。				

〔目名・科名〕	イシガイ目イシガイ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2014)	-
〔和名〕	<b>イシガイ</b>				
〔学名〕	<i>Unio douglasiae nipponensis</i> Martens	指定状況			-
【形態】	殻は中型で、殻質は比較的厚く長卵形。殻の中央よりやや前方にわずかな凹みがある。殻頂部より背縁にわずかな小波状の皺が刻まれるがやがて消失する。黒色で鈍い光沢がある。右殻に1、左殻に2の擬主歯を有し、側歯も長い。殻高38mm、殻長79mm内外。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	池沼や灌漑用水、その支流など底質が泥土や砂礫からなる水域に生息。				
【県内での生息状況】	台地・丘陵帯から低地帯に分布。県東部の中川低地から荒川低地、比企丘陵の池沼に見られたが少ない。旧江南町（現熊谷市）（松本・須永, 1998c,d）や嵐山町、小川町などの池沼や小流にわずかに生息する。				
【特記事項】	近年、生息地の水質悪化や圃場整備などの影響を受け生息地や個体数の減少が危惧される。				

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

〔目名・科名〕 イシガイ目イシガイ科  
〔和名〕 **ヨコハマシジラガイ**  
〔学名〕 *Inversium yokohamensis* (Ihering)  
指定状況  
埼玉県(2018) NT2 環境省(2014) NT  
-  
【形態】 殻はやや細長く、殻表面の彫刻はより細かい。殻高 31mm、殻長 53mm 内外。  
【国内分布】 北海道(南部)、本州(山陰地方、近畿東部以東)  
【主な生息環境】 中小河川で河岸植物群落の発達した砂礫底から砂泥底部に見られる。また湖やため池、小流などでも砂礫底の水系に生息。池沼の水辺など安定した砂礫や泥質のところが好適といえる。  
【県内での生息状況】 台地・丘陵帯に分布。主に嵐山町や越生町に生息するが個体数は少ない。県内では古くはマツカサガイ *Inversidens japonensis* と混同されて扱われてきた。その後、比企丘陵などには本種とマツカサガイの両種が産することがわかった。  
【特記事項】 本種に好適な生息環境がある丘陵地では、池沼や水路の改修、水質汚染などの影響を受けることが危惧される。

〔目名・科名〕 イシガイ目イシガイ科  
〔和名〕 **ドブガイ**  
〔学名〕 *Anodonta woodiana* (Lea)  
指定状況  
埼玉県(2018) NT2 環境省(2014) -  
-  
【形態】 両殻はよく膨れ、殻質は比較的薄く壊れやすい。殻色は黒褐色から茶褐色。殻高 68mm、殻長 103mm 内外。  
【国内分布】 北海道、本州、四国、九州  
【主な生息環境】 河川の中流から下流、水路、湖沼、池沼など生息範囲は広い。  
【県内での生息状況】 台地・丘陵帯から低地帯に分布。中川・荒川低地などや比企丘陵、秩父盆地などで見られる。旧江南町(現熊谷市)(松本・須永, 1998c.d)や嵐山町、越生町、秩父市(松本, 2008)などに分布する。旧北川辺町(現加須市)の旧川水系にも見られた(松本, 1988)が、現在は県内各地で減少している。  
【特記事項】 ドブガイは殻形から A 型(ヌマガイ)、B 型(タガイ)の 2 型および C 型(フネドブガイ)が知られているが、本文では従来(埼玉県, 2008)を踏襲してドブガイとした。一般に本種をカラスガイと称するがこれは誤りで、ドブガイには鉸歯がなく、後側歯があるカラスガイとの区別は容易である。

〔目名・科名〕 マルスダレガイ目ドブシジミガイ科  
〔和名〕 **ドブシジミ**  
〔学名〕 *Sphaerium japonicum* (Westerlund)  
指定状況  
埼玉県(2018) NT2 環境省(2014) -  
-  
【形態】 貝殻は小型で極めて薄質。淡黄灰褐色のシジミ型の二枚貝。殻高 6~7.5mm、殻長 7~9mm 内外。殻長部に原殻を有する。主歯は右に 2 個、左殻に 1 個有し側歯は右殻に 1 個、左殻に 2 個を有する。  
【国内分布】 本州、四国、九州  
【主な生息環境】 流れの緩やかな水路や池沼、水田などの泥底に生息する。  
【県内での生息状況】 低地帯に分布。中川・加須低地の久喜市青毛の水田での記録がある(埼玉県, 2008)。また特異な分布だが、秩父郡皆野町柴岡の休耕田にも 1986 年頃には多数生息していたが、近年はまったく見られない。前版刊行時と生息状況に変化はみられない。  
【特記事項】 主に水田や休耕田、その側流などに生息することから、農薬散布や土地造成による水質の悪化が危惧される。

〔目名・科名〕 異鰓目モノアラガイ科  
〔和名〕 **モノアラガイ**  
〔学名〕 *Radix auricularia japonica* Jay  
指定状況  
埼玉県(2018) NT2 環境省(2014) NT  
-  
【形態】 殻高 18mm、殻径 12mm 内外。貝殻は卵形。薄質で黄褐色、半透明。体層は大きく膨らむ。螺層は 4 層。成長した個体の外唇は弓状に湾曲する。  
【国内分布】 北海道、本州、四国、九州  
【主な生息環境】 池沼やため池などの止水域をはじめ、河川の細流や浅瀬で挺水植物などが繁茂する水域。  
【県内での生息状況】 台地・丘陵帯から低地帯に分布。台地や丘陵地、低山地の谷戸にみられる池沼や水田などの止水域に生息する。また荒川や支流の細流脇の池沼などにも生息する。比企丘陵や秩父地方には局地的に分布するが個体数は減少傾向である。  
【特記事項】 かつては県内の水域に広く分布していたが、近年、生息地や個体数が減少している。河川の増水により流路わきの生息地は消滅することがある。

【目名・科名】	異鰓目ヒラマキガイ科	埼玉県(2018)	LP	環境省(2014)	DD
【和名】	<b>トウキョウヒラマキガイ</b>	指定状況			
【学名】	<i>Gyraulus tokyoensis</i> (Mori)	-			
【形態】	殻は著しく扁平。黄褐色、薄質で円盤状、光沢はない。体層周縁部のキール状の微隆起には毛状の殻皮毛がある。殻高1.5mm、殻径5mm内外。				
【国内分布】	本州、四国、九州、南西諸島（沖縄）				
【主な生息環境】	緩やかな流水域から止水域にみられる。				
【県内での生息状況】	主に低地帯に分布。県内の中川・加須低地（埼玉県，2008）が分布の中心である。丘陵地でも旧都幾川村（現ときがわ町）や小川町などの記録（川名，1978）があり、低地から丘陵地にかけて分布することが知られている。前版刊行時と生息状況に変化はみられない。				
【特記事項】	本種は時として爆発的に発生するといわれている（埼玉県，2008）。				

【目名・科名】	異鰓目ヒラマキガイ科	埼玉県(2018)	LP	環境省(2014)	NT
【和名】	<b>ヒラマキガイモドキ</b>	指定状況			
【学名】	<i>Polypylis hemisphaerula</i> (Benson)	-			
【形態】	殻高1.5mm、殻径5mm内外。螺層は下部が外側に広がる円盤状となる。殻長部は浅く陥没する。殻色は黄褐色から淡い茶褐色の半透明で光沢があり、生時は藻類などが付着することも多い。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州、南西諸島（沖縄）				
【主な生息環境】	全国的に分布し、水田や水路、湿地など生息する。				
【県内での生息状況】	低地帯に分布。中川・加須低地では旧鷲宮町（現久喜市）や久喜市青毛の記録（埼玉県，2008）がある。また、1996年には秩父郡小鹿野町松井田や綾平において5月の水田中から多数の個体を確認した記録（松本，1997b）など、一部丘陵地にも分布するが、生息地は局地的である。				
【特記事項】	水田に水が張ってであると活発に活動する。しかし、乾田化してしまうとその地の個体は死滅する。				

【目名・科名】	異鰓目ヒラマキガイ科	埼玉県(2018)	LP	環境省(2014)	VU
【和名】	<b>ミズコハクガイ</b>	指定状況			
【学名】	<i>Gyraulus soritai</i> Habe	-			
【形態】	殻高1.5mm、殻径4mm内外。殻表面には繊細な成長脈があり、鈍い光沢を有する。螺塔はゆるやかに膨らむ。体層底面の膨らみは弱く、内方に傾斜し、広く深く陥没する。				
【国内分布】	本州（関東地方、北陸地方以西）				
【主な生息環境】	山際の水田や休耕地、湧水のある湿地などに生息する。挺水植物や水際付近の浮草などに付着する。				
【県内での生息状況】	低地帯に分布。行田市新田が模式産地。中川・加須低地に分布する。他の地域ではこれまで未確認である。水田や池沼の水辺にある泥土上や浮遊物に付着する（埼玉県，2008）。前版刊行時から生息状況に変化はみられない。				
【特記事項】	本種は陸産貝類のコハクガイに類似し、水生のため和名に「ミズコハク」とついた水生貝類。				

【目名・科名】	異鰓目キセルガイ科	埼玉県(2018)	LP	環境省(2014)	-
【和名】	<b>ナミコギセル</b>	指定状況			
【学名】	<i>Euphaedusa tau tau</i> (Boettger)	-			
【形態】	殻は小型で殻口の上板と下板はよく発達する。殻高15mm、殻径4mm内外。螺層は10層。紡錘形で黄褐色。殻表は光沢があり半透明となる。螺塔はやや尖り、縫合は深い。殻高は広く倒卵形。				
【国内分布】	本州（中国地方から関東地方まで）				
【主な生息環境】	落葉広葉樹林の自然林下で大樹の洞や朽木の樹幹部や樹皮下に付着する。				
【県内での生息状況】	台地・丘陵帯に分布。秩父市浦山広河原では落葉広葉樹の根本の洞や朽木の幹で確認した。飯能市（松本，2009）では、スギやヒノキ、カエデからなる林の倒木や朽木の樹皮下に生息する。東部低地から荒川流域の神社、仏閣の森叢、民家の大樹根本や樹皮の裏などの記録（埼玉県，2008）もある。				
【特記事項】	飯能市内では近年、新たな生息地が確認され多数個体が見られたが、このような事例は稀である。他の生息地における個体数は少ない。				

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物